

「原子力産業セミナー2011」の開催報告

当協会では、平成 18 年度から毎年、原子力産業界への理解促進と、理系学生と企業・機関の就職・採用活動支援を目的に、合同就職説明会方式の【原子力産業セミナー】を東京で開催しており、今年は 4 回目となる。

今年度の「原子力産業セミナー2011」は、関西原子力懇談会と共催し、東京のほか大阪でも初めて実施した。

原子力産業に特化した特徴あるセミナーの開催に賛同し、参加頂いた企業・機関は 43 社にのぼり、学生との出会いの場として、また、企業・機関の広報活動の一環として利用頂いた。

他方、折からの厳しい就職状況を反映してか、セミナーに参加した学生数は(大阪を除いても)過去最高となった。また、回を重ねるにつれ、本セミナーに対する認知度が向上してきたことも参加者数増加の要因と考えられる。

1. 背景

平成 18 年、原産年次大会「学生セッション」を実施した学生側から「働く場として原子力産業界の事をもっとよく知りたい」という要望があった。また、昨今では少子化に加え、学生の理系離れが進行しているため、原子力産業界では「志の高い学生を確保したい」という声が高まっている。このため、当協会では原子力産業界の人材育成の一環として、「原子力産業セミナー」を開催している。

2. 概要

今回は大阪での初開催を踏まえ、当協会と関西原子力懇談会の共催で実施した。

参加企業・機関： 43 社 (延べ 60 社、昨年度 45 社)
参加学生： 1116 名 (126 大学、76 大学院、その他 6 校。
昨年度 85 大学、47 大学院、参加学生 525 名)

(1)東京会場(12月12日(土) 新宿エルタワー 30 階 サンスカイルーム)

・参加企業・機関： 37 社

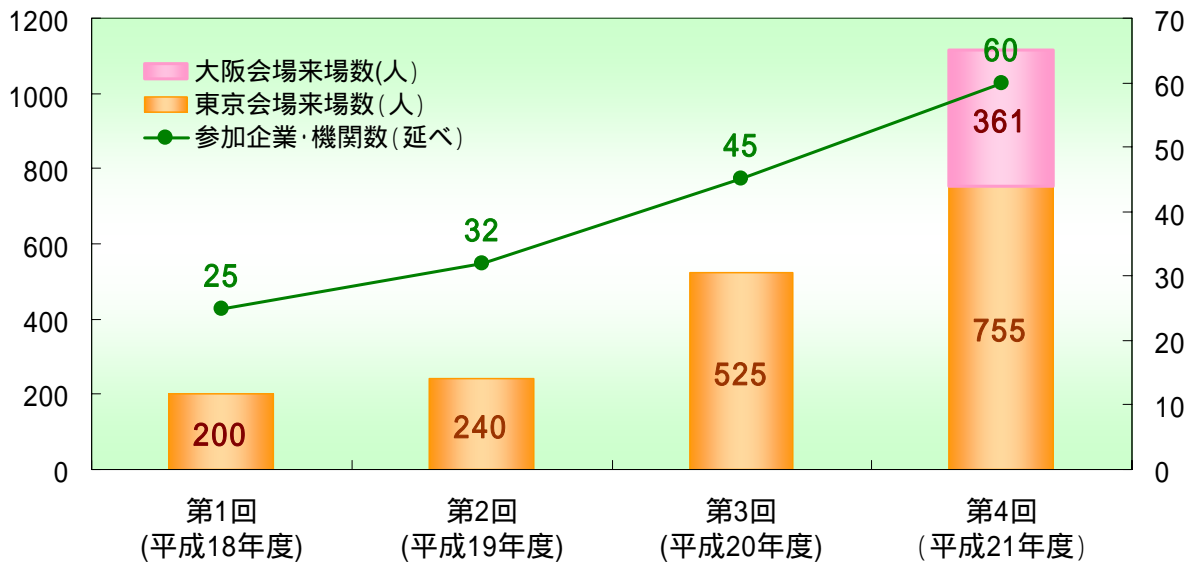
・参加学生： 755 名 (89 大学、50 大学院、その他 4 校、全 106 校)

(2)大阪会場(12月19日(土) 新梅田研修センター 2 階 Gホール・Lホール)

・参加企業・機関： 23 社

・参加学生： 361 名 (42 大学、35 大学院、その他 2 校、全 55 校)

参加学生数および参加企業・機関数の推移



3. セミナーの特徴

大阪で初開催

7 電力会社、3 主要プラントメーカーをはじめ、幅広い原子力関連企業の参加
 原子力安全・保安院が初参加、及び多数の研究機関の参加
 政府機関 3 機関の後援、学協会 11 団体の協賛 [別紙 2]
 原子力理解のための各種模型及びパネルの展示

4. 原子力技術の紹介・展示

原子力産業の理解促進の一環として原子力技術を紹介するため、以下の模型やパネル等の展示を実施した()内は展示協力元、敬称略)。

< 東京会場 >

- ・ PWR 模型 (関西原子力懇談会)
- ・ BWR 模型 (東京電力)
- ・ 燃料集合体模型 (東京電力)
- ・ もんじゅ模型 (日本原子力研究開発機構)
- ・ 霧箱 (日本原子力研究開発機構)
- ・ 核融合炉模型 (日本原子力研究開発機構)
- ・ エマルションフロー (日本原子力研究開発機構)
- ・ パネル：放射線 (東京電力)
- ・ パネル：日本原子力研究開発機構概要、F B R、もんじゅ、核融合炉、J-PARC、地層処分 (日本原子力研究開発機構)
- ・ パネル：世界に貢献する日本の原子力技術 (日本原子力産業協会)

< 大阪会場 >

- ・ PWR 模型 (関西原子力懇談会)
- ・ パネル：世界に貢献する日本の原子力技術 (日本原子力産業協会)

5. さまざまな手段による学生への周知活動

インパクトの有るポスターの採用 [別紙3]

就職情報サイト「マイナビ2011」に「原子力産業特集」を掲載 [別紙4]

その他、郵送ダイレクトメール(はがき)の活用、日本原子力学会の学生間ネットワーク等の協力

6. メディアの取材・掲載(別紙5)

7. 来場者データおよびアンケート結果

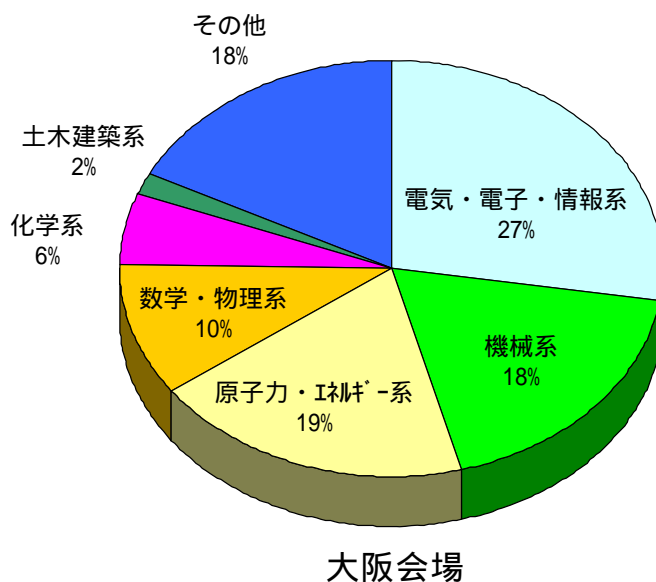
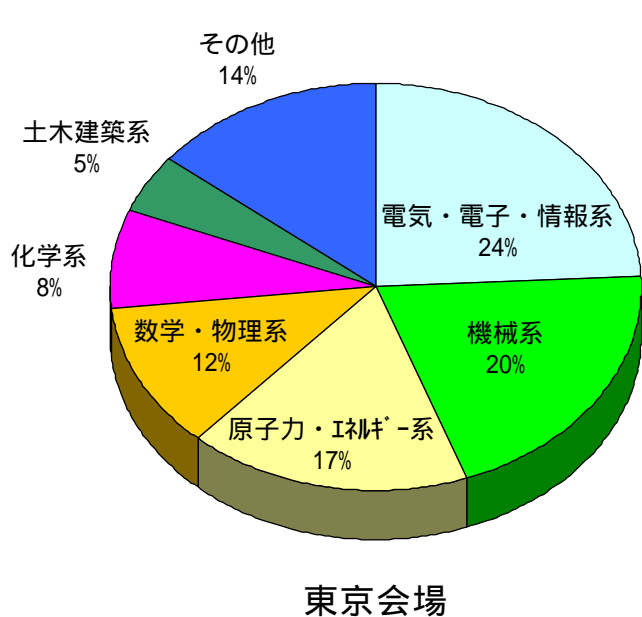
7.1 大学院・学部別構成比

	東京会場 ()内は割合 単位:人	大阪会場 ()内は割合 単位:人	全体 ()内は割合 単位:人
大学院生	288(38.1%)	169(46.8%)	457(40.9%)
学部生	458(61.7%)	189(52.4%)	647(58.1%)
その他	9(1.2%)	3(0.8%)	12(1.1%)

短期大学、高等専門学校等

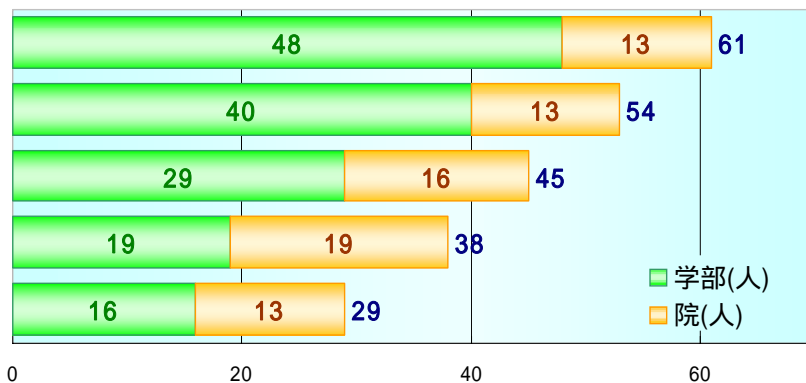
7.2 学科別構成比

	東京会場 ()内は割合 単位:人	大阪会場 ()内は割合 単位:人	全体 ()内は割合 単位:人
電気・電子・情報系	156(24.3%)	85(27.6%)	241(25.3%)
機械系	129(20.1%)	56(18.2%)	185(19.5%)
原子力・エネルギー系	111(17.3%)	59(19.2%)	170(17.9%)
数学・物理系	75(11.7%)	32(10.4%)	107(11.3%)
化学系	51(7.9%)	17(5.5%)	68(7.2%)
土木建築系	35(4.7%)	5(1.6%)	35(3.7%)
その他	30(14.2%)	54(17.5%)	145(15.2%)
理系合計	643	308	951(100%)

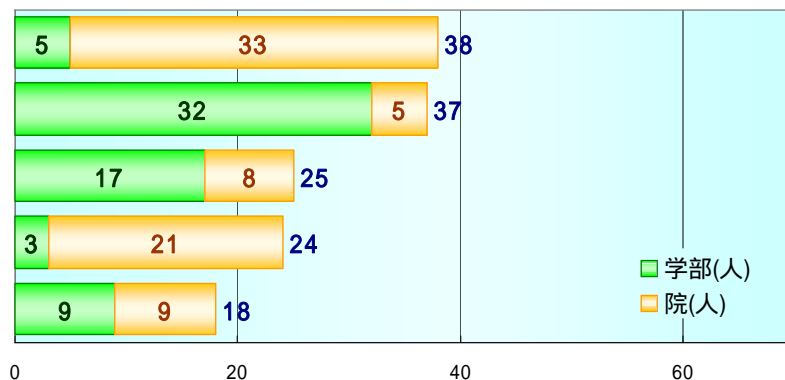


7.3 来場者数上位5校

	東京(単位:人)		
	総数	学部	院
日本大学	61	48	13
東海大学	54	40	13
東京都市大学	45	29	16
東京理科大学	38	19	19
中央大学	29	16	13



	大阪(単位:人)		
	総数	学部	院
大阪大学	38	5	33
近畿大学	37	32	5
同志社大学	25	17	8
京都大学	24	3	21
神戸大学	18	9	9



7.4 男女別構成比(原産協会調べ)

	東京会場 ()内は割合 単位：人	大阪会場 ()内は割合 単位：人	全体 ()内は割合 単位：人
男	428(88.1%)	218(88.6%)	646(88.3%)
女	53(10.9%)	26(10.6%)	79(10.8%)
その他	5(1.0%)	2(0.8%)	7(1.0%)
合計	486	246	732(100 %)

7.5 文理比

	東京会場 ()内は割合 単位：人	大阪会場 ()内は割合 単位：人	全体 ()内は割合 単位：人
文系	104(13.8%)	53(14.7%)	157(14.1%)
理系	643(85.2%)	308(85.3%)	951(85.2%)
不明	8(1.0%)	0(0%)	8(0.7%)
来場者合計	755	361	1116(100 %)

8. 来場者アンケート

8.1 「原子力産業セミナー2011」を知ったきっかけ(複数回答可)

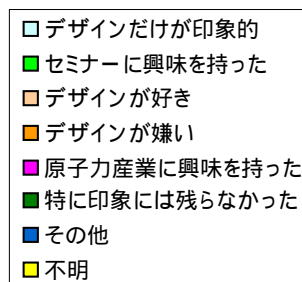
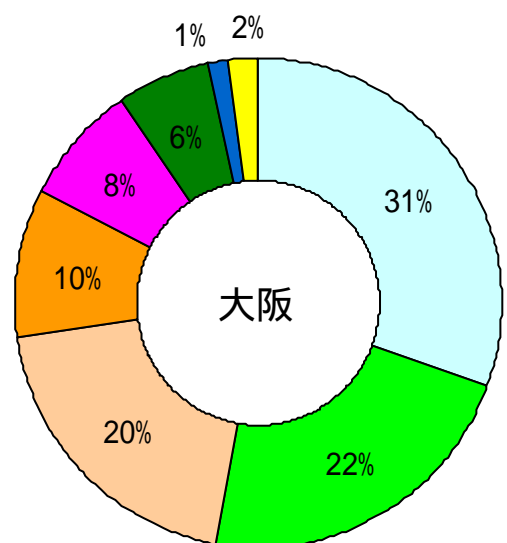
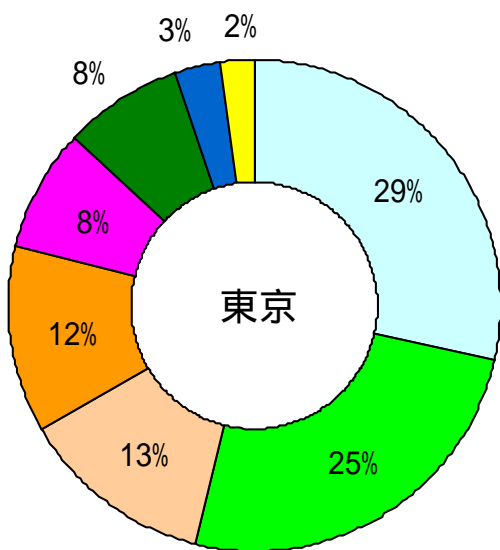
	東京会場 ()内は割合 単位：人	大阪会場 ()内は割合 単位：人	全体 ()内は割合 単位：人
マイナビ2011	262(53.9%)	145(58.9%)	407(55.6%)
郵送ダイレクトメール	138(28.4%)	64(26.0%)	202(27.6%)
学校掲示のポスター	126(25.9%)	59(24.0%)	185(25.3%)
企業からのメール・ホームページ	83(17.1%)	43(17.5%)	126(17.2%)
友人・知人	74(15.2%)	39(15.9%)	113(15.4%)
就職イベント会場配布のチラシ	54(11.1%)	37(15.0%)	91(12.4%)
就職イベント会場掲示のポスター	49(10.1%)	25(10.2%)	74(10.1%)
先生からの情報	33(6.8%)	15(6.1%)	48(6.6%)
ウェブ - ダイレクトメール	28(5.8%)	13(5.3%)	41(5.6%)
その他	13(2.7%)	8(3.3%)	21(2.9%)
不明	5(1.0%)	2(0.8%)	7(1.0%)
合計	486	246	732

8.2 マイナビ2011「原子力産業特集」はご覧になりましたか？

	東京会場 ()内は割合 単位：人	大阪会場 ()内は割合 単位：人	全体 ()内は割合 単位：人
見た	290(59.7%)	142(57.7%)	432(59.0%)
見ていない	191(39.3%)	101(41.1%)	292(39.9%)
不明	5(1.0%)	3(1.2%)	8(1.1%)
合計	486	246	732(100 %)

8.3 ポスターの印象

	東京会場 ()内は割合 単位：人	大阪会場 ()内は割合 単位：人	全体 ()内は割合 単位：人
デザインだけが印象的	139(28.6%)	75(30.5%)	214(29.2%)
セミナーに興味を持った	123(25.3%)	55(22.4%)	178(24.3%)
デザインが好き	62(12.8%)	49(19.9%)	111(15.2%)
デザインが嫌い	59(12.1%)	24(9.8%)	83(11.3%)
原子力産業に興味を持った	40(8.2%)	20(8.1%)	60(8.2%)
特に印象には残らなかった	37(7.6%)	15(6.1%)	52(7.1%)
その他	15(3.1%)	3(1.2%)	18(2.5%)
不明	11(2.3%)	5(2.0%)	16(2.2%)
合計	486	246	732(100 %)



8.4 原子力産業セミナー2011の開催時期

	東京会場 ()内は割合 単位：人	大阪会場 ()内は割合 単位：人	全体 ()内は割合 単位：人
ちょうど良い	390(80.2%)	187(76.0%)	577(78.8%)
もっと早い方が良い	79(16.3%)	47(19.1%)	126(17.2%)
もう少し遅い方が良い (12月後半～1月前半)	8(1.6%)	5(2.1%)	13(1.8%)
もっと遅い方が良い (1月後半～2月前半)	1(0.2%)	3(1.2%)	4(0.5%)
不明	8(1.6%)	4(1.6%)	12(1.6%)
合計	486	246	732(100%)

8.5 新たに興味を持った企業の有無

	東京会場 ()内は割合 単位：人	大阪会場 ()内は割合 単位：人	全体 ()内は割合 単位：人
有った	405(83.3%)	180(73.2%)	585(79.9%)
無かった	52(10.7%)	31(12.6%)	83(11.4%)
不明	29(6.0%)	35(14.2%)	64(8.7%)
合計	486	246	732(100%)

8.6 原子力産業セミナー2011で役立った点(複数回答可)

	東京会場 ()内は割合 単位：人	大阪会場 ()内は割合 単位：人	全体 ()内は割合 単位：人
担当者と話ができ、その企業・機関の雰囲気や情報が掴めた	327(67.3%)	160(65.0%)	487(66.5%)
直接担当者に話を聞き、仕事内容等をイメージできた	221(45.5%)	107(43.5%)	328(44.8%)
展示・掲示物を見て、産業理解が深まった	178(36.6%)	69(28.0%)	247(33.7%)
新しい志望企業を発見できた	168(34.6%)	68(27.6%)	236(32.2%)
企業・機関の説明会日程の確認、予約等ができた	39(8.0%)	27(11.0%)	66(9.0%)
自分を直接アピールできた	33(6.8%)	19(7.7%)	52(7.1%)
その他	4(0.8%)	3(1.2%)	7(1.0%)
不明	29(6.0%)	35(14.2%)	64(8.7%)
回答数	486	246	732(100%)

8.7 原子力産業セミナー2011に参加し、原子力産業への理解は深まったか？

	東京会場 ()内は割合 単位：人	大阪会場 ()内は割合 単位：人	全体 ()内は割合 単位：人
とても深まった	176(36.2%)	84(34.1%)	260(35.5%)
やや深まった	244(50.2%)	113(45.9%)	357(48.8%)
あまり深まらなかった	37(7.6%)	14(5.7%)	51(7.0%)
全く深まらなかった	1(0.2%)	0(0.0%)	1(0.1%)
不明	28(5.8%)	35(14.2%)	63(8.6%)
合計	486	246	732(100%)

8.8 原子力産業のイメージ

	東京会場 ()内は割合 単位：人	大阪会場 ()内は割合 単位：人	全体 ()内は割合 単位：人
将来性・安定性	204(42.0%)	87(35.4%)	291(39.8%)
不可欠・重要産業	177(36.4%)	82(33.3%)	259(35.4%)
地球温暖化防止に貢献	59(12.1%)	29(11.8%)	88(12.0%)
危険	13(2.7%)	7(2.8%)	20(2.7%)
不透明・不安	6(1.2%)	4(1.6%)	10(1.4%)
その他	4(0.8%)	3(1.2%)	7(1.0%)
不明	27(5.6%)	35(14.2%)	62(8.5%)
合計	486	246	732(100%)

8.9 参加学生および企業・機関の声

(1)参加学生

<東京会場>

- ・ それぞれの会社が独特のこだわりを持っており、理解が深まった。
- ・ どの企業も少人数採用で人間性を見て決めるところが多く、現実の厳しさが身にしみた。
- ・ なかなかこういったセミナーは無いと思うので、とても良い機会だったと思う。
- ・ 原子力産業のことが全く分からず来たが、説明を受け、理解できた。
- ・ 参加してよかった。マイナビのHP上でもっとアピールしてほしかった。友人に聞かなければ知らずにいた。
- ・ 原子力部門に特化した話が聞けてよかった。
- ・ 原子力に関係のある企業の生の声が聞けて、充実した時間を過ごすことができた。
- ・ これからは原子力産業の需要が増えてくると思うので、このようなセミナーがあると嬉しい。
- ・ 文系の学生には少し場違いな気がした。
- ・ 原子力分野専攻学生にはとても魅力的だった。コミュニケーションエリアも充実して

いて良かった。

- ・それぞれの企業がみな原子力発電のどこかの部分を担い、繋がっていることが良いと思った。

<大阪会場>

- ・文系学生なので理系対象セミナーということで少なからず不安を抱えて参加したが、どの企業も歓迎して下さり、さまざまな知識を吸収することができた。
- ・東京に比べ大阪の参加企業が少ないのが残念だった。
- ・原子力産業とそのサイクル、重要性についての考えが深まり、とてもよかった。興味を持った。
- ・原子力という限られた分野のセミナーは非常に役に立つ。また機会があれば参加したい。
- ・ポスターの地図がわかりにくかった。
- ・開催地を2つ設けて下さったことに感謝する。東京に行く時間がなかったのも、大阪で参加することができよかった。
- ・かなり専門的な話が多くて、文系学生には少し難しかった。しかし、「こんな世界なんだな」と雰囲気がかめた。

(2)参加企業・機関の声

- ・公務員試験の受験を考えている学生はもちろんのこと、試験に関心が無かった学生であっても熱心に聞いてもらった。
- ・関心は高く、説明を熱心に聞いていました。質問者は、元々当社の事業内容をある程度知る学生（原子力専攻等）が事務系の学生が多かった。
- ・昨年と比べモチベーションの高い学生が多かった。
- ・企業選びの基軸が定まっていない学生が多いとの印象を受けた。
- ・学生は概ね真面目に話を聞いていた。
- ・熱心な学生が多く、自分の能力を活かせる企業を探していることがよく伝わってきた。
- ・男子学生は例年通り千差万別。ただ、昨年に較べて、全体的に熱心な学生が多いという印象を受けた。
- ・東京・大阪両会場とも、学生はいたって真剣だった。
- ・様子見のような学生が多いと感じた。
- ・自ら質問をする学生が多く、意欲が伝わってきた。メモを取りながら、真剣な表情で説明を聞いていた。
- ・メモもしっかり取っており、熱心に聴いていた印象。質問も多く、真剣さを感じた。
- ・積極的に質問をし、熱心な学生が多かった。
- ・積極的に話を聞いていた。多くの学生が、積極的に質問していた。
- ・原子力産業には興味があるが、電力会社志望の学生が多かった。原子力専攻の学生が多く、比較的興味を持ってもらえた。
- ・業種・職種をまだ絞り込めていない学生が多いと感じたが、自分の選択肢を増やそうと真剣に聞いているのは例年よりも強く感じられた。
- ・真剣ではあるが、企業研究中の学生が多く絞り込みまで至っていなかった。
- ・入社試験の内容に関心のある学生が多かった。
- ・自ら訪問してきた学生は熱心に質問した。
- ・両会場とも、学生は積極的にいろいろなブースを回っており、ブース来場者も関心を

持って説明を聞いていた印象を受けた。

- ・ 説明後に積極的に質問してくる学生がおり、12月にしては就職に対する意識の高さを感じた。
- ・ 熱心な学生もいたが、全体的にはまだ様子見の状況。また、話し方等学生気分が抜けていない学生もいた。

9. 会場の様子

東京会場（新宿エルタワー 30階サンスカイルーム）



大阪会場（新梅田研修センター 2階G・Lホール）



原子力産業セミナー2011 参加企業・機関一覧（五十音順、*：初参加）

No.	参加企業・機関名	参加会場	
		東京会場	大阪会場
1	株式会社アトックス		
2	伊藤忠テクノソリューションズ株式会社		
3	ウツエバルブサービス株式会社		
4	MHI原子力エンジニアリング株式会社		
5	株式会社オー・シー・エル		
6	関西電力株式会社		
7	関電プラント株式会社*		
8	株式会社グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン		
9	経済産業省 原子力安全・保安院*		
10	原子燃料工業株式会社		
11	独立行政法人原子力安全基盤機構		
12	原子力発電環境整備機構		
13	原電事業株式会社		
14	原燃輸送株式会社		
15	四国電力株式会社*		
16	新日本空調株式会社		
17	太平電業株式会社*		
18	中国電力株式会社*		
19	中部電力株式会社		
20	株式会社千代田テクノル		
21	株式会社テプコシステムズ		
22	財団法人電力中央研究所		
23	株式会社東京エネシス		

次頁に続きます。

No.	参加企業・機関名	参加会場	
		東京会場	大阪会場
24	東京電力株式会社		
25	東京防災設備株式会社		
26	株式会社東芝		
27	東芝プラントシステム株式会社		
28	東電環境エンジニアリング株式会社		
29	東電工業株式会社		
30	東電設計株式会社		
31	日本エヌ・ユー・エス株式会社		
32	独立行政法人日本原子力研究開発機構		
33	日本原子力発電株式会社		
34	日本建設工業株式会社 *		
35	日本原燃株式会社		
36	財団法人発電設備技術検査協会		
37	株式会社日立製作所		
38	株式会社日立プラントテクノロジー		
39	北海道電力株式会社 *		
40	三菱原子燃料株式会社		
41	三菱重工業株式会社 *		
42	三菱マテリアル株式会社		
43	財団法人若狭湾エネルギー研究センター		

共催・協賛・後援団体一覧

形態	団体名
共催	関西原子力懇談会
後援	原子力委員会
	文部科学省
	経済産業省
協賛	(社)応用物理学会
	(独)国立高等専門学校機構
	(社)電気学会
	(社)電子情報通信学会
	(社)土木学会
	(社)日本化学会
	(社)日本機械学会
	(社)日本原子力学会
	(社)日本建築学会
	(社)日本物理学会
日本保健物理学会	

計 15 団体



一緒に原子力をデザインしませんか？



東京

12月12日
10:00-17:00

【ブース出展企業・機関】

- ▶(株)アトックス ▶伊藤電子テクノソリューションズ(株)
- ▶MH原子力エンジニアリング(株) ▶(株)オーシーエル
- ▶関西電力(株) ▶(株)グローバル・ニュークリア・フューエル・ジャパン
- ▶原子燃料工業(株) ▶(株)原子力安全産業機構
- ▶原子力発電設備整備機構 ▶原研家賃(株) ▶新電報通(株)
- ▶新日本空運(株) ▶太平洋電業(株) ▶中部電力(株)
- ▶(株)千代田テクノル ▶(株)アプロシステムズ
- ▶(株)電力中央研究所 ▶(株)東京エネクス ▶東京電力(株)
- ▶東京防共設備(株) ▶(株)東芝 ▶東芝プラントシステム(株)
- ▶東電環境エンジニアリング(株) ▶東電工業(株) ▶東電設計(株)
- ▶日本エヌ・ユー・エス(株) ▶(株)日本原子力研究開発機構
- ▶日本原子力発電(株) ▶日本原研(株)
- ▶(株)発電設備技術検査協会 ▶(株)日立製作所
- ▶(株)日立プラントテクノロジ ▶三菱原子燃料(株)
- ▶三菱重工業(株)
- ▶三菱マテリアル(株)

大阪

12月19日
10:00-17:00

【ブース出展企業・機関】

- ▶(株)アトックス ▶ツウエ/バルブサービス(株)
- ▶MH原子力エンジニアリング(株)
- ▶(株)オーシーエル ▶関西電力(株)
- ▶関西プラント(株) ▶原子燃料工業(株)
- ▶新電報通(株) ▶中部電力(株)
- ▶新日本空運(株) ▶太平洋電業(株)
- ▶中部電力(株) ▶(株)アプロシステムズ
- ▶(株)東芝 ▶東芝プラントシステム(株)
- ▶(株)日本原子力研究開発機構
- ▶日本原子力発電(株) ▶日本建設工業(株)
- ▶日本原研(株) ▶(株)発電設備技術検査協会
- ▶三菱重工業(株)
- ▶(株)発電設備エネルギー研究センター

原子力産業セミナー

先着100名
無料入場券
入退場自由
理系全学科
Welcome
先着100名

マイナビ2011が特集中
<http://job.mynavi.jp/2011/>

東京会場
新宿エルタワー30階
サンスカイルーム
(新宿駅西口より徒歩3分)
東京都新宿区西新宿1-6-1

大阪会場
新梅田研修センター2階
G・Lホール
(JR大阪駅北橋口より徒歩12分)
シャトルバスで5分
大阪市福島区福島6-22-20

主催 (社)日本原子力産業協会・関西原子力懇話会 tel:03-6812-7102 e-mail:nis2011@jaif.or.jp
 【後援】原子力委員会/文部科学省/経済産業省 【協賛】(独)国立高等専門学校機構/(社)電気学会/(社)電子情報通信学会/(社)土木学会/(社)日本化学会/
 (社)日本機械学会/(社)日本原子力学会/(社)日本建築学会/(社)日本物理学会/日本保健物理学会 【協力】マイナビ2011



原子力産業セミナー2011 ポスター



◆ 特集トップ ◆ 原子力産業セミナー ◆ セミナー参加企業 ◆ 原子力産業の将来性 ◆ 原子力と環境貢献

原子力産業セミナー
2009年 **東京** 2011
12月12日(土)
詳細はこちら

原子力産業セミナー
2009年 **大阪** 2011
12月19日(土)
詳細はこちら

セミナー参加企業

ミッションは「安全」。
安全確保が私たちの最大の使命です。

>> 経済産業省 原子力安全・保安院



セミナー参加企業一覧を見る

原子力と環境貢献


原子力産業の環境貢献とは？

原子力産業の将来性

原子力産業はどれくらい拡大しているのか？

原子力材料に関わる仕事 

発電所をつくりだす仕事 

発電所を動かす仕事 

人々の生活を支える仕事 

<メディアの取材>

- ・ (株)日刊工業出版プロダクション
- ・ 日刊電気通信社
- ・ (株)燦
- ・ ナショナルピーアール(株)
- ・ 電気新聞
- ・ 東京新聞(中日新聞)
- ・ 原子力産業新聞

<メディアの掲載>

(1) 電気新聞(平成21年12月15日付)

セミナーには原子力関連事業を行う電力、プラントメーカーなど43社・機関がブースを出展。今回、規制機関から初めて原子力安全・保安院が参加した。各ブースでは採用担当者による会社説明

や業界動向の説明のほか、談話スペースでは担当者や学生の間で個別相談なども行われた。セミナーは今年で4回目。参加学生は毎年増加傾向で、反響の高さを受けて19日には大阪・梅田でもセミナーを開催する。事務局では参加数の増加要因について、世界的な原子力発電見直しの動きや環境問題への対応で原子力に対する学生の意識が変わってきていると分析する。初参加の三菱重工の人事担当者は「数年前と学生の食いつきが違う。レベルの高い学生が集まっている」と印象を話していた。



過去最高の来場者数を記録した原子力産業セミナー。多くのブースが立ち見の学生らでにぎわった

企業説明会

原子力への関心高く

過去最高の750人が来場

日本原子力産業協会と関西原子力懇談会が主催する合同企業説明会「原子力産業セミナー2011」が12日、東京・新宿で開かれた。4回目となる今年、過去最高となる約750人の就職活動中の学生が来場。人気企業のブースでは立ち見が

で、反響の高さを受けて19日には大阪・梅田でもセミナーを開催する。事務局では参加数の増加要因について、世界的な原子力発電見直しの動きや環境問題への対応で原子力に対する学生の意識が変わってきていると分析する。初参加の三菱重工の人事担当者は「数年前と学生の食いつきが違う。レベルの高い学生が集まっている」と印象を話していた。

映してか、今後も成長が期待できる原子力に学生の関心が高まっているようだ。就職活動に限らず、原子力全般に対する理解を深めるきっかけになれ

ば」と語り、会場の熱気に手応えを感じた様子だった。

また、理化学を専攻する女子学生は、「女性の少ない業界で不安な面もあったが、産休・育休制度などについて女性社員から生の声が聞けて非常に参考になった」と話していた。

就活支援セミナー 1000人超す

原子力に学生ら熱視線

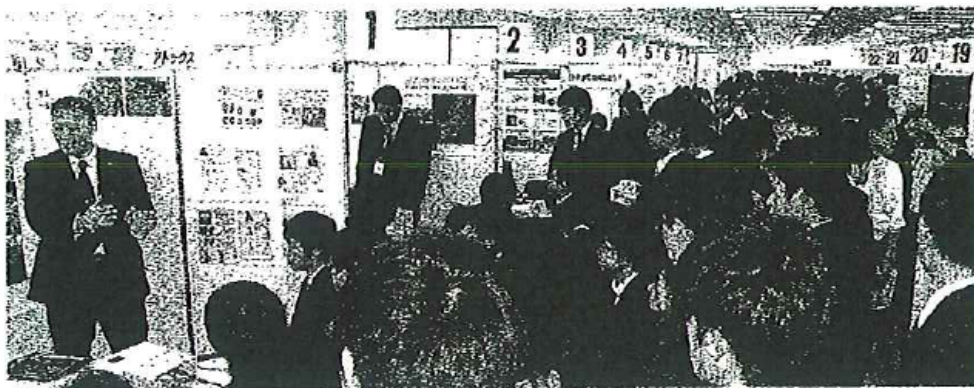
原子力産業への理解を促進して学生の「就活」を支援する原子力産業セミナーが東京と大阪で開かれた。就職難と世界的な原子力回帰の流れを背景に過去最高の千人を超す学生が参加。人材確保が重要課題の関係企業との熱心なやりとりが続いた。

セミナーは日本原子力産業協会と関西原子力懇談会が主催し、今年で四回目。これまでは東京だけの開催だったが、日をずらして初めて大阪でも実施した。それぞれ七百五十五人、三百六十一人の学生が参加した。

東京、関西、中部など七電力会社、東芝、日立製作所、三菱重工業の主要プラントメーカー三社など企業、研究機関、さらに初参加の経済産業省原子力安全・保安院など延べ六十のブースを設けた。

東京では、開場の一時間前から学生が集まり始め、原産協会の原秀策・政策推進部マネージャーは「今年の熱気はすごい。セミナーを始めたころは原子力産業への理解活動中心だったが、今は完全に就職説明会。不況のせいだけでなく、地球温暖化対策としての原子力が注目されているからではないか」と説明。求人については「原子力関係は増やす傾向にある」と話す。

人気があるのは電力会社やプラントメーカー。スライドなどを使って若手・中堅社員が自分



担当者から説明を受ける就活の学生たち―東京都新宿区で

の経歴を紹介しながら、仕事の内容を分かりやすく説明した。参加者が多すぎてブースに入れず、十数回に分けて説明会を行う企業もあった。

東芝の担当者は「参加者は昨年の約三倍。積極的に質問し、原子力について勉強してよく知っているのに驚いた」と評価。「わが社でも原子力部門が一番元気がいい。採用も増やしている」と話す。

原子力専攻の東京大修士二年(こ)は「世界市場が開けてきた。環境とエネルギーにスポットが当たってきたのでやりがいがある」。日本大文理学部化学科の三年生(こ)は「二酸化炭素削減には原子力が中心になると思う。リプレイス(古い原発の置き換え)の時代に入るので、活躍の場が広がる」と意欲を見せていた。

(3) ENERGY for the FUTURE(ナショナルピーアール：2010 No.1、写真のみ)



優秀な人材の確保が原子力産業の未来を決める
原子力産業セミナーの様子 (2009年12月12日)

(4) 原子力 eye(2010年3月号)

開発や人材育成の基盤を強化していくための方策について検討を行う「原子力基盤強化作業部会」を設置した。昨年7月に中間整理を取りまとめたが、このうち原子力人材の育成については、原子力基盤の維持・強化を図るために要となるのは優れた人材とし、優秀な原子力人材を継続的に輩出していくためには大学等が実施する研究・教育活動を効果的に支援するとともに、わが国の原子力界全体として戦略的に人材育成を進めていく必要があるとしている。そして早急に対応すべき事項としては、初等中等教育段階における原子力教育の強化や大学レベルの原子力人材育成支援等の強化、若手研究者への支援の拡充、立地地域における原子力人材育成活動の強化などを挙げており、その具体化を急ぐことを求めている。

原子力への関心高まる企業説明会

他方、(社)日本原子力産業協会は原子力人材育成の動きと歩調を合わせるように、平成18年から毎年、学生を対象とした合同企業説明会方式の「原子力産業セミナー」を開いている。学生を対象とした原子力産業への理解向上及び学生と企業の就職・採用活動の支援を目的としたもの。4回目のセミナーは、同協会とその地方組織である関西原子力懇談会が共催し、東京以外に大阪でも初めて平成21年12月に開催した。両会場合計で延べ60に上る企業・機関、1,116人の学生が参加した。特に東京会場(新宿エルタワー)には前年の500人を大幅に上回る755人もの学生が訪れ、電力会社や原子力メーカーなど人気企業のブースは押すな押すなの盛況ぶり。初開催の大阪でも361人が参加した。これも原子力発電に対する世界的な再評価や折からの就職氷河期と呼ばれ

る程の雇用悪化を反映したものと見えようか。

会場内のブースでは、若手技術者達が会社や事業の説明にあたり、学生側も熱心に質問を浴びせていた。参加者は理工系専攻の学生が中心だったが、「原子力産業で働きたくなった」、「原子力の将来性にかきたい」などと概ね原子力に対する関心の高さをうかがわせた。また、心理学専攻の女子学生は「原子力は環境対策にも有効と聞いているので、地元の電力会社に就職したい」と環境対策面を切り口とした声も聞かれた。一方、国の規制関係機関から初めて参加(東京会場のみ)した経済産業省の原子力安全・保安院は、「こんな時代だからこそ、国家公務員になりませんか」というユニークなキャッチフレーズの張り紙で学生の興味を引いていた。同院の佐藤暁電力安全課電気保安室長は「原子力安全に対する国民の期待に応えるためにも、人を育てることが重要」と強調し、「そのためにも原子力安全規制に関心のある人が望ましいが、公務員試験の受験を考えている学生はもとより、試験に関心のない学生にも熱心に聞いてもらえた」と十分な手応えを感じている様子だった。同院としては、今後も原子力施設立地点にある大学向けの地方説明会を継続拡大していきたいと意気込んでいる。

主催者の服部拓也同協会理事長は「昨今の雇用環境などを反映してか、参加学生は昨年よりも増え、原子力への関心も高まっているようだ。原子力は国際展望が開けつつあり、数少ない成長性のある事業なので、このセミナーが原子力を理解してもらう良い機会になればと願っている」と期待を寄せていた。

(本誌編集顧問 大橋久生)



活況を呈する「原子力産業セミナー」

原子力界に集まる期待

原産セミナー2011 東京・大阪で開催

原産協会は十二月十二日に東京・新宿エルタワーで、十九日に大阪・新梅田研修センター(写真)で、合同企業説明会形式のイベント「原子力産業セミナー2011」を開催した。

同セミナーは、学生と企業の就職・採用活動の支援、原子力産業への理解促進を目的としており、大阪での開催は今回

が初めて。東京・大阪を合わせ、延べ六十の企業・機関、千百十六名の学生が参加した。両会場とも開場前から学生たちの列ができ、同セミナーへの関心の高さが伺えた。

来場者は理工系専門の大学院生・大学生が中心だったが、環境問題について学ぶうちに原子力エネルギーの持つ可能性に興味を持ったという学生

や、留学先で学んだ外国語を活かして国際的な仕事をしたいという学生もいた。

原子力業界に対しては、「世界をフィールドに今後ますます伸びていく分野だ」として期待を抱く声が多く聞かれた。また、「有名なメーカー

が原子力に力を入れていくことを知り驚いた」という意見や、「これまで名前を知らなかった企業が熱心に原子力分野に取り組んでいることを知り興



味を持った」という意見を述べる学生たちもいた。

会場では多くの有意義な出会いが生まれ、実り多いイベントとなった。



6 January 2010

JAIF Stages Nuclear Industry Seminar 2011 in Tokyo and Osaka

The Japan Atomic Industrial Forum (JAIF) hosted the “Nuclear Industry Seminar 2011” in Tokyo on December 12, 2009, and in Osaka a week later on December 19. The session in Osaka was the first time for the seminar to be held in that city.



Each seminar took the form of a joint gathering of various nuclear-related companies, and aimed both to support university students seeking employment and to further general understanding of the nuclear industry. More than 1,100 students attended this year's gatherings in the two cities, with 60 companies and organizations participating. At both sites,

long lines of students waited for the doors to open, indicating a high degree of interest.

Most of the students at the seminars were specializing in science or engineering at the undergraduate or graduate levels. However, a few had become interested in the potential of nuclear energy while studying such subjects as the environment, and some others wanted to be involved in international activities using a language proficiency they had acquired during study overseas.

Many said they thought the nuclear industry would be an area that would continue growth on a worldwide basis.

Editor: Mio Kimuro, JAIF